

新生児から高齢者まで安全な手術を提供

先天性、後天性心疾患の各分野にバランス良い症例数と、良好な手術成績をあげています。すでに確立された手術を確実にを行うことを基本方針としつつ、最新の治療法も積極的に取り入れて手術の効果と安全性を高めるようにしています。

診療体制

心臓血管外科経験年数10年以上の常勤スタッフ6名が診療。手術執刀責任医は心臓血管外科専門医。小児の診療、手術は小児心臓外科専門施設で研修を受けたスタッフが担当しています。

対象疾患

虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、弁膜症(僧帽弁狭窄、僧帽弁閉鎖不全、大動脈弁狭窄、大動脈弁閉鎖不全)、先天性心疾患(心房中隔欠損、心室中隔欠損、ファロー四徴、大血管転位など)、心筋症、心不全、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症など

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

心大血管手術件数は年間約250件。冠動脈バイパス手術では動脈グラフトを多用、弁膜症に対しては自己弁を温存した弁形成術を行うなど、術後の生活クオリティを重視した手術を行っています。大動脈瘤に対しては、低侵襲なステントグラフト内挿術も積極的に行っています。

高度医療の取り組み・研究

○下肢虚血に対する増殖因子徐放を用いた血管新生療法
外科治療の対象とならない重症の下肢虚血(閉塞性動脈硬化症、バージャー病)に対する、塩基性線維芽細胞増殖因子(bFGF)の局所徐放による血管新生療法の臨床試験を実施中です。



自ら受けたい治療の創造

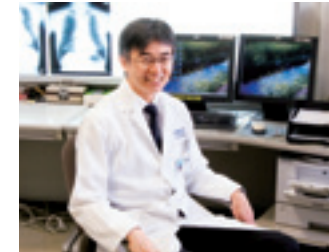
「自分が患者になったら」を常に考え、呼吸器内科、放射線科、外来化学療法部などとの連携を密に取り、診断、集学的治療、手術、再発時の治療を円滑に行い、終末期医療についてもホスピスなどとの連携で対応しています。

診療体制

肺疾患に関する豊富な知識を持った複数の呼吸器外科専門医が患者さんの治療を行います。外来は月曜日から金曜日まで、肺移植外来(月曜日)、肺癌・中皮腫外来(金曜日)など専門外来も行っています。

対象疾患

原発性肺癌、転移性肺腫瘍の他、膿胸、肺真菌症、肺結核・非定型抗酸菌症などの感染性疾患、自然気胸などの胸膜疾患、巨大肺嚢胞症などの気腫性疾患など。また重度呼吸不全に対する肺移植を行っています。



診療、研究実績

一般的な診療についての実績

年間400件以上のさまざまな呼吸器外科手術を行っています。このうち原発性肺癌が200例以上を占めています。心疾患、高血圧、糖尿病、肺気腫、間質性肺炎などの合併症をかかえた患者さん、80歳以上の高齢の患者さんの手術を多く行っています。

高度医療の取り組み・研究

- ①肺移植
呼吸不全患者に脳死肺移植、生体肺移植を行っています。5年生存率は、80%を超えており、世界の平均50%を大きく上回っています。
- ②低侵襲手術
手術は原則として、カメラを用いた手術を標準とし、患者さんの負担を減らすことを重視しています。また、肺の機能を温存するために切除範囲を小さくした縮小手術も行なっています。
- ③オーダーメイド医療への試み
遺伝子などの検査により抗癌剤を選択するなど、患者さん個人に合った治療を選択しています。

